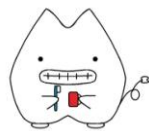


歯っぴー通信



No. 16 平成26年11月発行

むし歯は遺伝するの？

「むし歯になりやすいのは遺伝もありますか？」

そんな質問をされることがあります。確かに癌（がん）など病気によっては遺伝の影響があるとされています。では、むし歯はどうでしょう？

生まれたばかりの赤ちゃんの口の中にはむし歯の原因であるミュータンス菌はいません。大人が口をつけたスプーンで赤ちゃんにご飯を食べさせるなど、周りの人からミュータンス菌が赤ちゃんの口の中に入ってしまうのです。つまり、むし歯というのは後天的なものなのです。

しかし、歯の大きさやあごの骨格的な特徴などは遺伝の影響を受けていると考えられます。あごが小さく歯がきれいに並びきらなかった親の子どもは、やっぱりあごが小さく歯がガタガタにならなくなってしまったというのはいり得るのです。親も子も歯並びが悪く歯みがきがしにくいため、結果的に親子共にむし歯になりやすいということもあります。

また、同じ家に住んでいると当然食生活は似てきます。甘いものが好きなお母さんの子は甘いものを口にする機会が増えます。軟らかいものばかりを好む家庭では、子どもも軟らかいもの中心の食事になります。家族の食生活が子どものむし歯に与える影響は大きいのです。

似てくるのは食生活だけではありません。丁寧に歯磨きをしている親の姿を見て、子どももまた歯磨きをしっかりするようになります。歯磨きを適当にすませてしまう親を見て育つと、子どもも歯磨きをしなくなり結果的にむし歯の多さは親に似てしまった・・・ということになるのです。

このように、むし歯自体は直接遺伝というわけではありませんが、むし歯のしやすい環境は遺伝的要素に影響されることがあるのです。

親知らずのお話

「親知らず」とは上下左右の1番奥に生えてくる8番目の歯のことです。すべての人に生えるわけではなく4本すべて生える人もいれば、歯茎の下に隠れたまま生えない人もいます。さらには歯茎の下にも親知らずが存在しない人もいます。

親知らずは18歳から20歳前後の親元から離れる時期に生えることが多く、親が歯の生え始めを知ることがないからこの名前がついたとされています。

親知らずは抜かなければいけないと思っている方も多いようですが、当院では問題なく生えている場合は抜かなくてもいいと考えています。横向いて生えているため隣の歯を押ししていたり、たびたび痛みや腫れを繰り返していたり、むし歯になっていて治療がやりにくい場合などは抜歯をおすすめしています。生え方によっては病院を紹介させていただき、口腔外科で抜歯をお願いすることもあります。